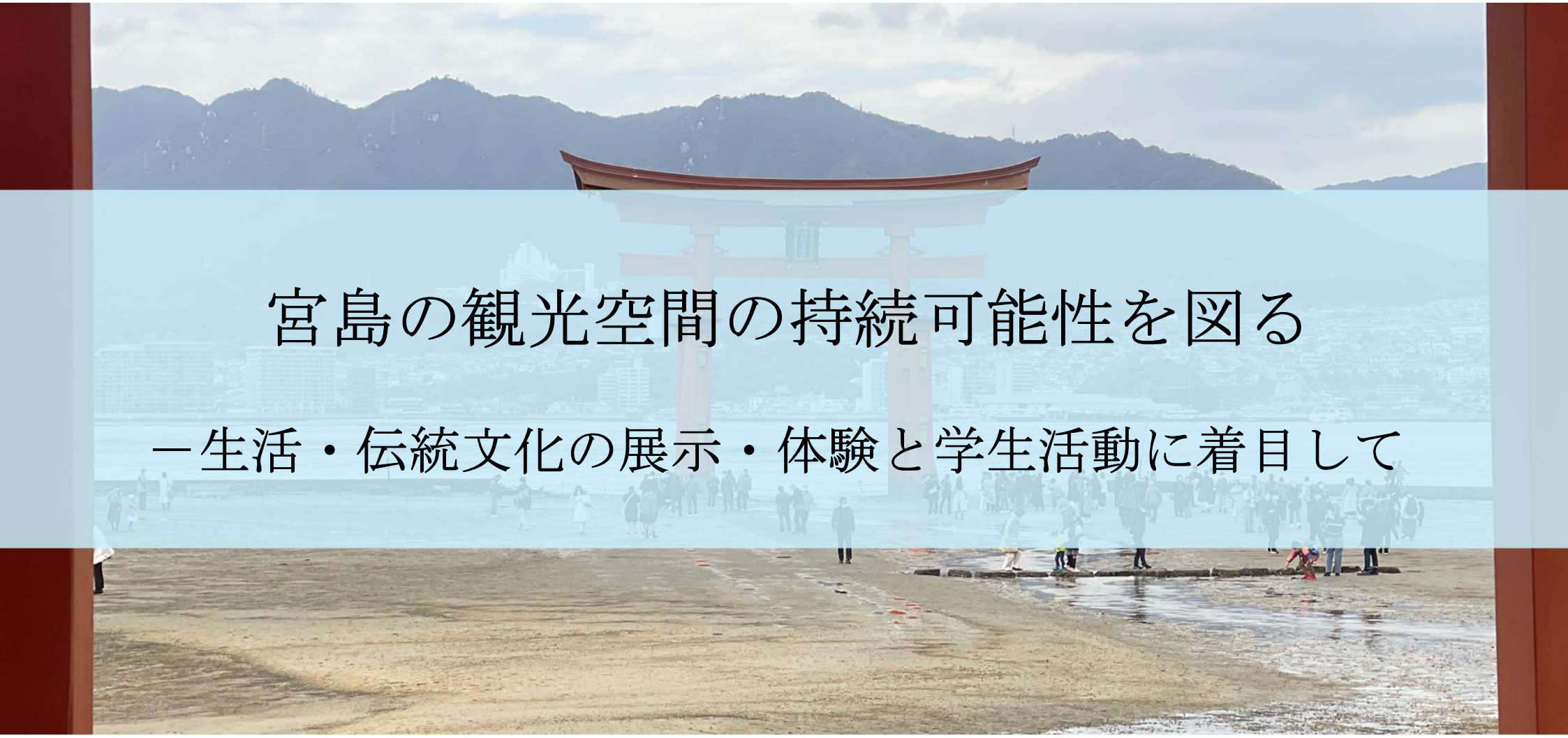
２０２５年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」審査会プレゼン



宮島の観光空間の持続可能性を図る

―生活・伝統文化の展示・体験と学生活動に着目して

宮島の観光空間の持続可能性を図る：生活・伝統文化の展示・体験と学生活動に着目して

2025年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」

背景

500万人の観光客　　**人口減少と空き家増加**　　**観光客の集中**

近年の取り組み

重要伝統的建造物群指定　　**中江町活性化協議会の伝統文化発信活動**　　**学生の関わり**

方法

	調査内容	分析・検討内容
①	住民へのインタビュー（連続）	伝統文化と宮島の生活を伝える内容を検討
②	中江マルシェでガイドツアーとパネル展示，参加者アンケート（総合科学部）	伝統文化と宮島の生活を伝える内容と方法を検討
③	重伝建建物の見学ツアー，中江マルシェ（夜）開催（工学部）	伝統文化と宮島の生活を伝える方法を検討 →　宮島に深く関わる人を増やす
④	地域活動の参画学生のアンケート，聞き取り（総合科学部）	参加動機と参加意思の持続性　→　継続的な活動を図るため

目標

歴史文化の展示・活用方法、観光客，学生と住民が共に文化体験できる空間を検討
宮島の伝統文化と観光空間を支える学生活動の継続的な仕組みの構築

ビジョン

世界遺産宮島の深い文化を様々な背景の人に伝え，
地域の学生が積極的に関わる，観光客と住民が共に体験できる空間を作る

①インタビュー：実施概要

- 17人を対象にしてインタビューを実施
- レストランや宿泊などを含めた多様な業種に従事する対象者から色々な声を聞くことができた
- ・30代から90代まで幅広い年齢層による宮島に対する思い出とビジョンを収集することができた
- 約25時間の音声データ →　これから分析を進める

番号	年齢	性別	業種
1	90代	女性	退職
2	40代	男性	レストラン
3	60代	女性	茶寮
4	40代	男性	観光協会
5	50代	男性	カフェ
6	60代	女性	退職
7	60代	男性	退職
8	50代	女性	お土産屋
9	60代	男性	宿泊
10	50代	女性	レストラン
11	70代	女性	退職
12	40代	女性	着物レンタル
13	40代	男性	宿泊
14	40代	女性	宿泊
15	50代	女性	カフェ
16	50代	男性	カフェ
17	30代	男性	宿泊

①インタビュー：内容

第一部：宮島の観光

- 宮島の変化
- 宮島の観光から受けた影響
- 宮島での生活に関する便利と不便
- 宮島の地域づくりに対する意見

第二部：歴史的建造物

- 歴史的建造物の活用に対する意向
- 歴史的建造物の活用における困難

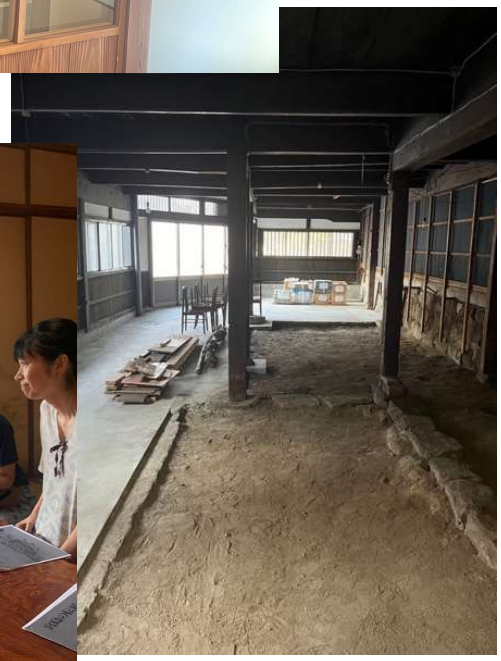
結果：
一部：パネル展示で紹介(2025年9月)

②ガイドツアーとパネル展示

展示：「宮島は厳島神社だけではない！ 活きている伝統」

ツアーのテーマ：「暮らしが見える観光」

- 場所：中江町，滝町
- 時期：ちゅえマルシェ（9・11月）
- 初回ツアー：当初の計画：ガイド中心，歴史解説→住民と相談→住民との対話を重視
- 英語と日本語，２回実施
- 重伝建建物とティーショップそれぞれ25分，各地区の説明5分
- 参加者から高評価：「新たな視点が得られた」；住民・店のオーナーと観光客との交流の場を創出；少人数だったため、活発な質問、交流が見られた



②ガイドツアー

- 第２ツアー：夜間形式的な説明から脱却→雰囲気，散策，写真撮影に重点を置く
- →情報が重要視されるよりも，体験そのものが重要視されるようになった

②ガイドツアー

考察：

- ガイドツアーは、参加者の協働 × イベントの文脈 × 時間の設定によって形作られる　→　適応性の高い実践である
- 解説のあり方は，知識の伝達から体験的・関係的かつ持続可能な関与へと移行している
- ガイドツアーは，画一的なサービス商品ではなく，柔軟な解説の実践が問われる

成果： 調査協力をいただいたガイドの方々と共有

宮島に深く関わる人を増やす、きっかけをつくる場所

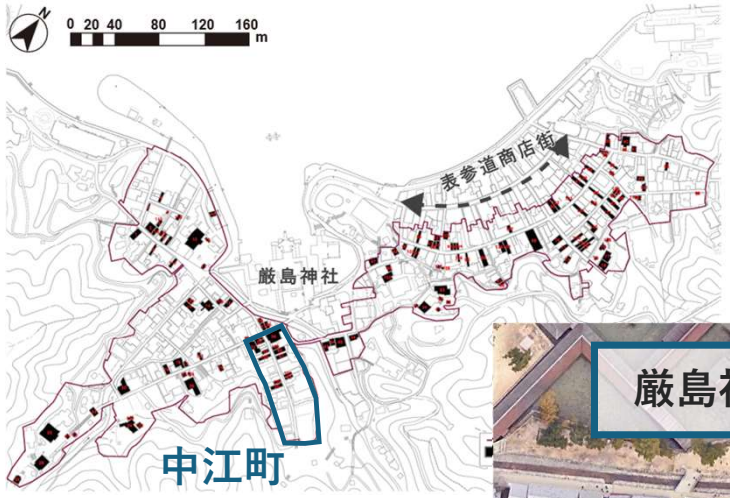
9月

重伝建見学会

11月

マルシェ

対象地：宮島 中江町



【凡例】

重伝建

関わった重伝建

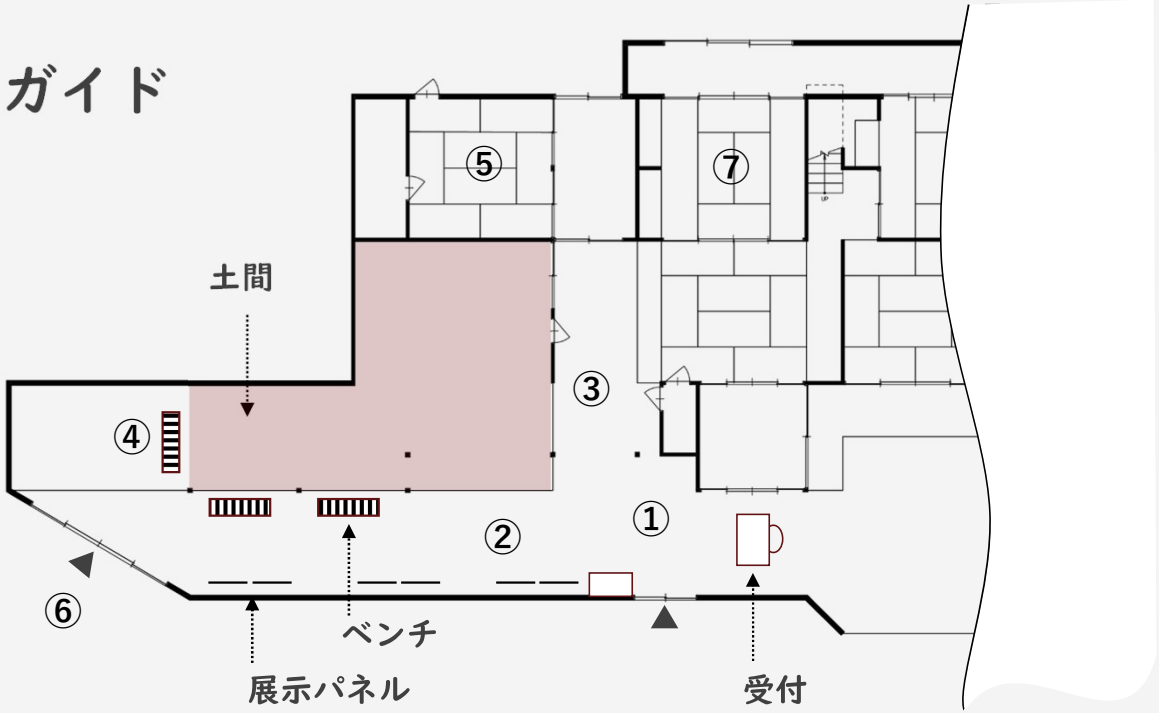
厳島神社のすぐ裏手に位置し、重伝建が多く分布

9月21日に開催

■重伝建見学会の内容

- 宮島における町家建築のガイド
- 重伝建所有者との交流
- アンケート回答

■案内図



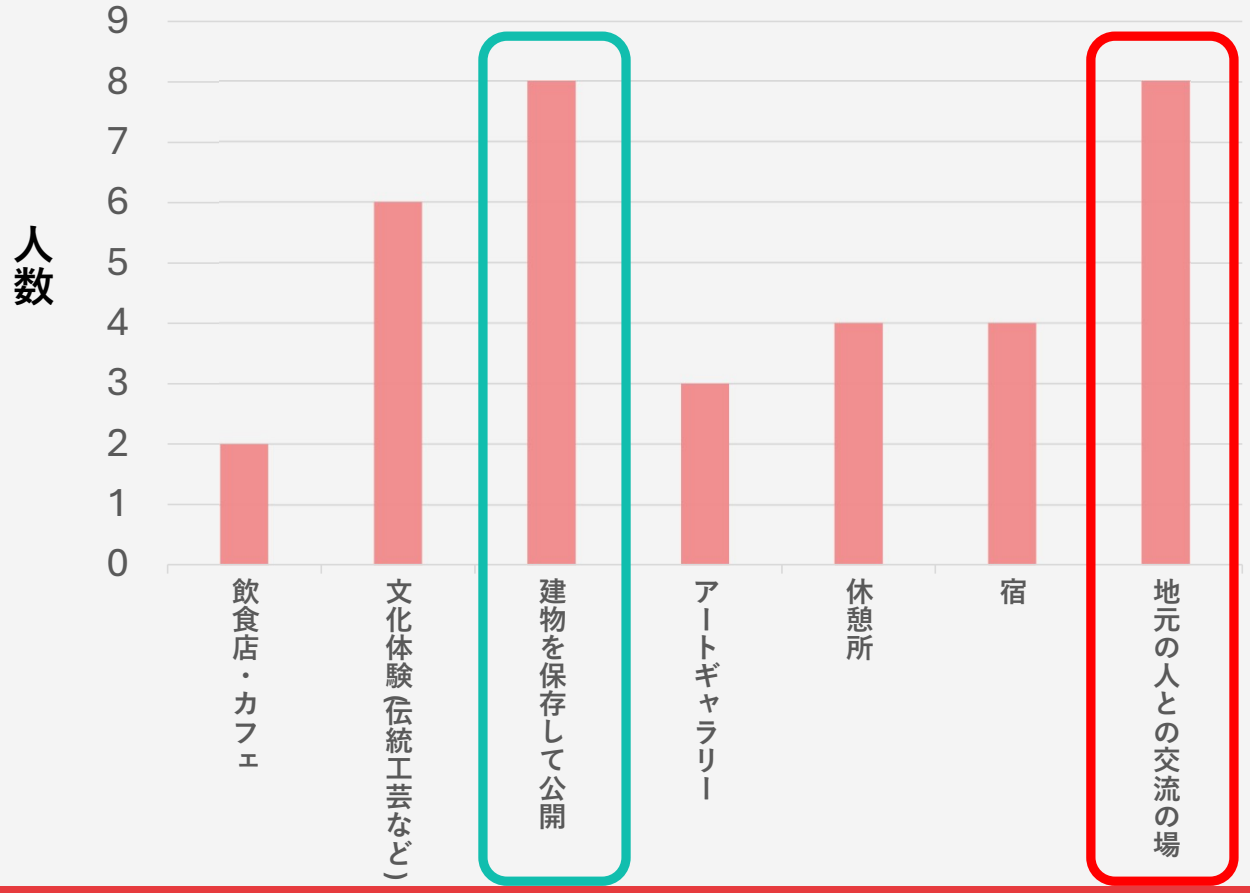
観光客向けに、伝統的建築のガイドツアーを実施

■イベントの様子

見学会

フリー見学

今後、どのように活用してほしいか？



観光資源としてだけでなく、地域との接点を創出する場が求められている可能性

宮島に深く関わる人を増やす、きっかけをつくる場所

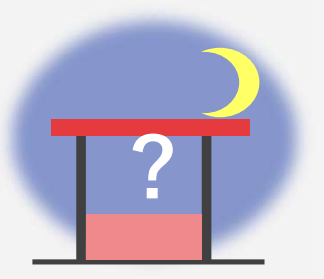
9月

ガイドツアー・見学会

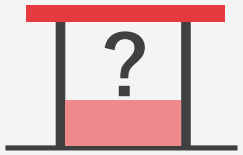
11月

マルシェ

●実施目的



夜に店を開けたときの効果



店舗運営のノウハウ

社会実験で利用する重伝建の使われ方

来年の活用に向けて試験的にやってみる

修道大、帝京大、広大の3大学でマルシェを出店

これまで→昼の時間のみ、**今回→夕方~夜(15時～20時)**

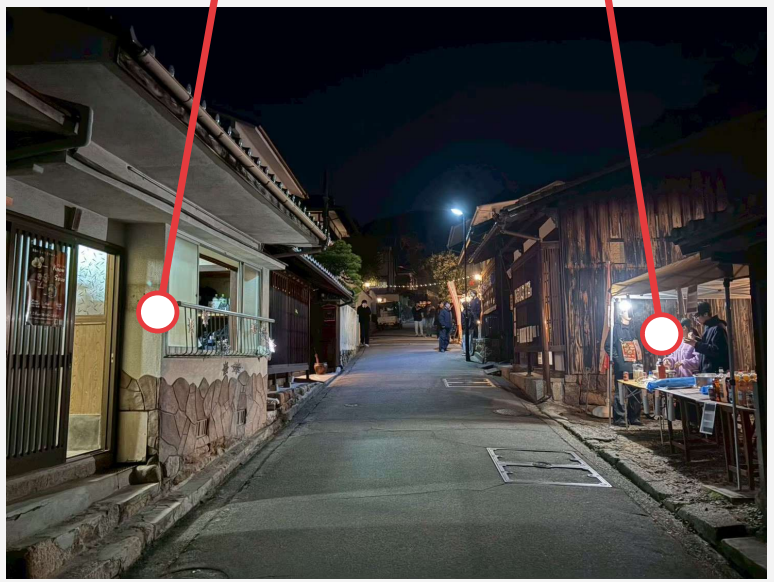
1-4 秋マルシェ

広大：甘酒

修道大：おでん

重伝建
（休憩所）

マルシェ運営



17時頃までは通りがかった人が多く利用した
夜は人が全く来なくなった

1-4 重伝建を休憩所として活用

●窓をあけると近隣の方が様子を見に来る

●近隣の方、表参道での仕事わりの方が話しに来た

秋マルシェを終えて…

秋マルシェ

- 夜(18時以降)、予想より人が来ない

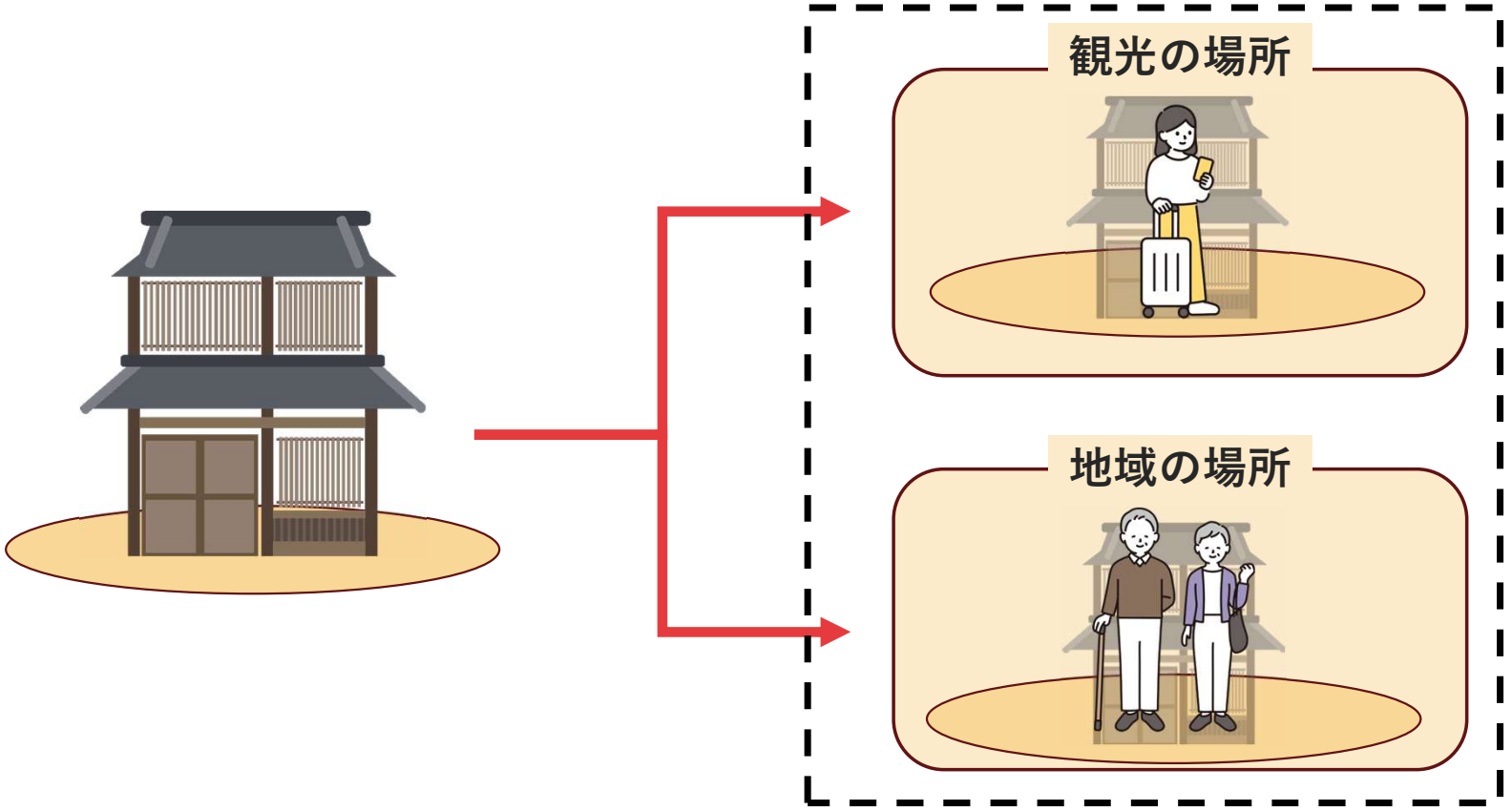
休憩所

- 表参道で働いていた仕事終わりの人が来た
- 重伝建の中に近隣の方が話に来ていた

観光に加えて

地域の方の交流の場となりうるポテンシャル

観光に加えて、地域のための交流の場としてのポテンシャル



今後の重伝建の適切な活用方法を模索する取り組み

④地域活動の参画学生を対象にした調査

プロジェクト名

- 中江町活性化プロジェクト

参加者

- 広島県内の大学生

学生の役割

- イベントの企画
- 住民との交流
- 伝統文化の保存
- 地域活性化

ちゅうえマルシェ＆
たのもさんワーク
ショップ

④調査方法

1. 参与観察

- 2025年7～11月
- 夏の中江マルシェ、たのもさんワークショップ、冬の中江マルシェ

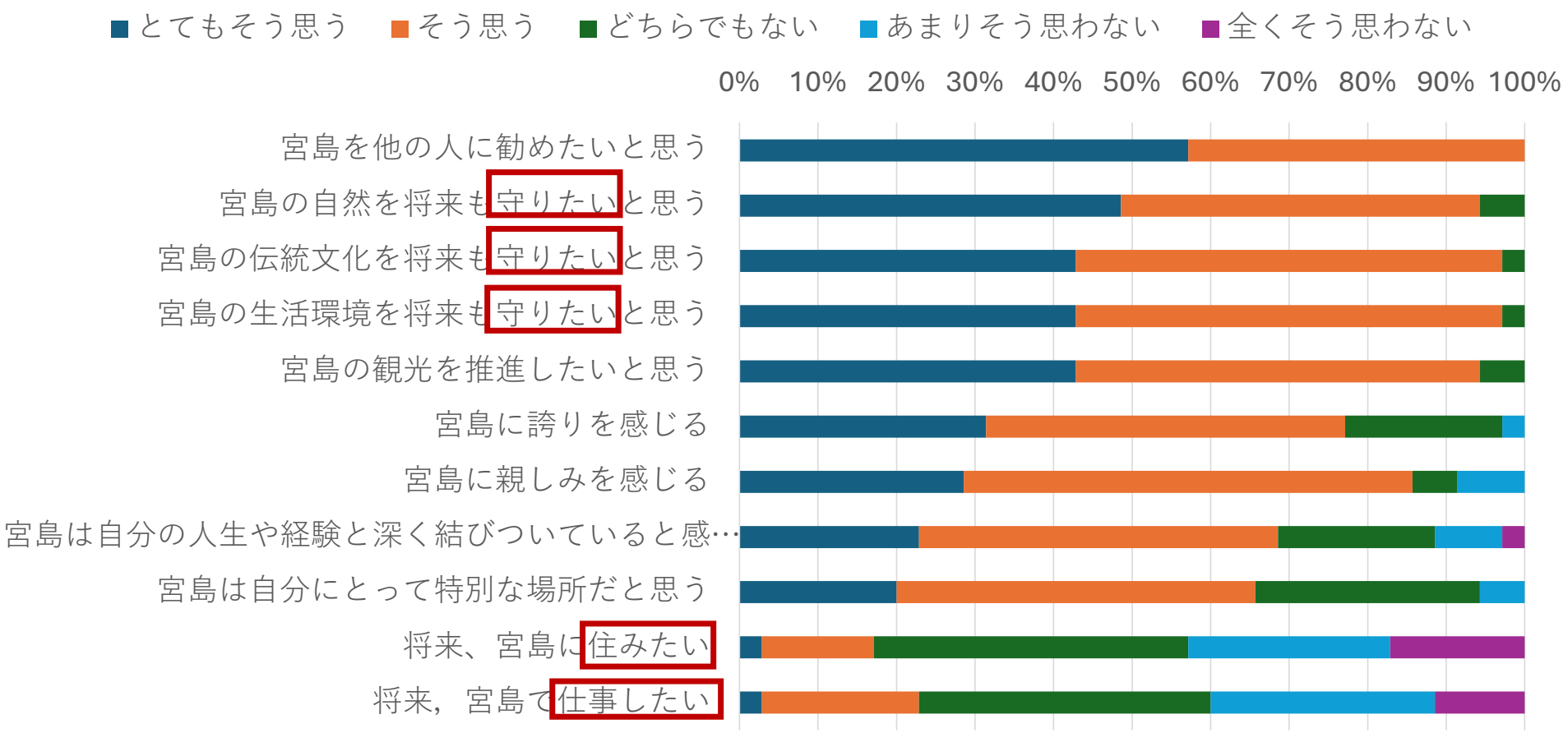
2. アンケート

- 2025年9～11月
- 回答者35名
- 5段階評価

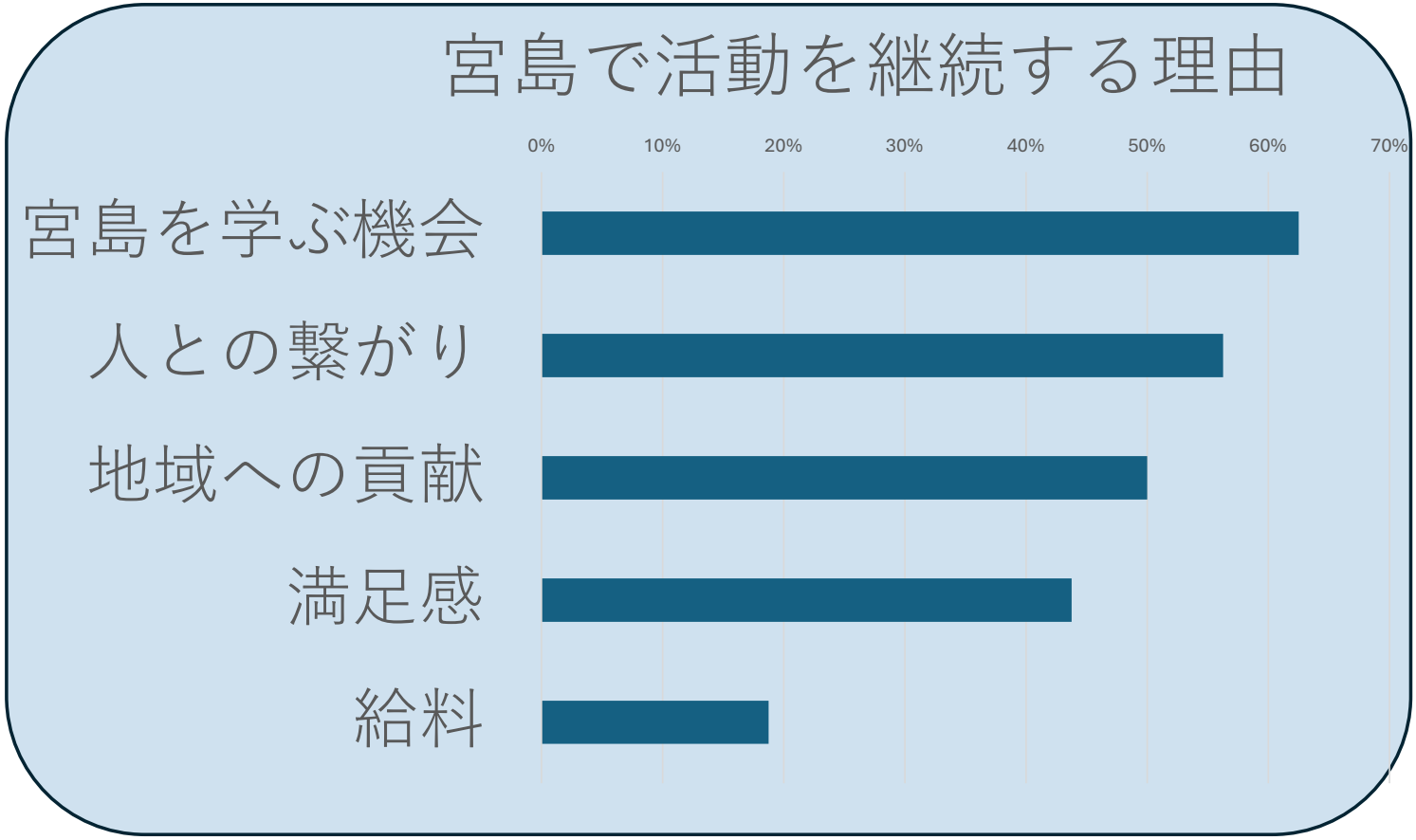
3. インタビュー

- 2025年12月
- 学生3名

④結果： 宮島に対する想い



④結果：活動の継続



63%

56%

50%

44%

19%

学生は住民との交流を通して関係を構築する

④結果：まとめ

① 関与は小さな動機をきっかけに始まる
- 小さな理由が宮島での関与に繋がった

② 継続的な関与が場所への愛着を育む
- 宮島は学生にとって特別な場所になった

③ 関係性が関与を支える
- 住民の方が受け入れてくれた

④ 関係人口にはなるが，住む・働く人にはならない？

2025年度　元気応援プロジェクトの成果：地域からの評価

2024年

・フンク教授らと聞き取り調査を実施
・地域課題の顕在化／客観的・学問的視点の導入

2025年

・学生によるガイド活動の実施
・宮島における学生組織の調査・関係構築
・重伝建物件を活用した古民家の見学会の実施

2026年

・田中研究室（都市計画）と連携
・古民家活用／まちづくり組織構築へ

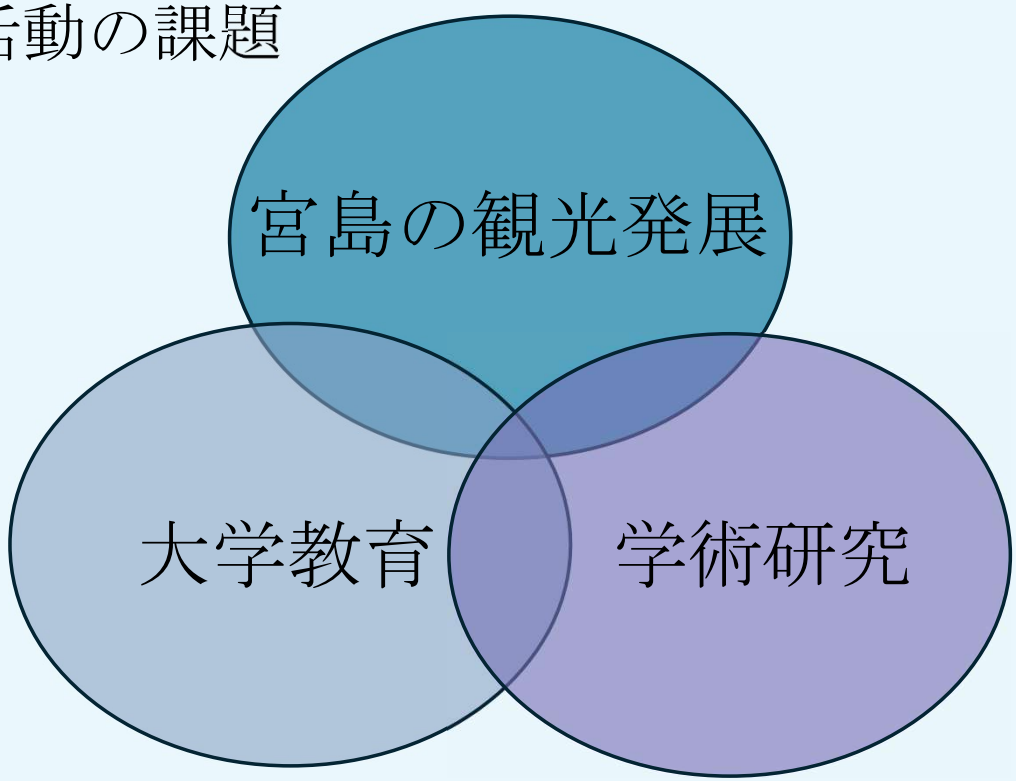
成果発表

① 学生発表：
- 広島県内観光研究学生の発表会2026年1月
- 宮島学生フォーラム2026年2月

② 国際学会：
- 7th International Conference on Tourism Development in Vietnam ベトナム2025年８月
- Critical Tourism Studies Asia Pacific 京都2026年3月

③ 今後の予定：
- 学術論文として投稿
- 報告書として関係者と共有

伝統文化・建物の展示と活用についての社会実験
学生活動の課題



調査方法の指導
地域活動の体験
卒業論文（2本）

世界遺産観光地の
持続可能性